

記 録

岡山県におけるアライグマの痕跡調査

岡山県自然保護センター 森 生枝

Records of traces by feral raccoon (*Procyon lotor*) in Okayama Prefecture

Ikue MORI, Okayama Prefectural Nature Conservation Center

キーワード：生息情報，特定外来生物，爪痕。

はじめに

アライグマ (*Procyon lotor*) は北米原産の食肉目アライグマ科に属する中型の哺乳類である。日本での最初の野生化は、1962年愛知県犬山市の施設で飼育されていた個体からと言われる(揚妻, 2004)。その後、1970年代後半に放映された連続テレビアニメが人気を呼んだことも影響したのか、ペットとして多数が輸入されるようになった。2000年に狂犬病予防法による検疫対象動物に指定されて輸入規制されるまで、日本に輸入されたが、輸入数の実態は不明である(揚妻, 2004; 川道ほか, 2010)。アライグマは成獣になると飼育が困難になって野外に放されたり、器用な手先を使って檻から逃走したりして、各地で野生化したと考えられている。2006年の時点で46都道府県からアライグマの情報が得られている(池田, 2006)。

各地に定着したアライグマは、自然生態系へ被害を与えるとともに、農作物の食害を引き起こし、民家や社寺などへ侵入して屋根裏で糞尿を排泄したり建造物を損傷させている。また、人獣共通感染症の媒介者としても危惧されている(池田, 2006)。

岡山県におけるアライグマの分布については全くわからない状態であった(小林ほか, 2010)。そこで、アライグマの生息状況を把握することを目的に、2010年4月から痕跡調査を開始した。あ

わせて若干の聞き取りも行ったので報告する。

痕跡による生息状況把握

アライグマの生息状況を把握するためには目撃が最も確実である。しかし、主に夜行性であるため目撃は頻繁ではない(川道ほか, 2010)。金田(2009)はアライグマの有効な発見方法の一つとして、アライグマが残した爪痕や手足型などの痕跡について紹介している。すなわち「アライグマは登攀能力も高く、原産地では大径木などに登り樹洞を巣や峙とすることが知られている。日本でも家屋や社寺などに登り、天井裏などに住みつくことがある。際して、社寺などの柱では、その爪痕が残る」(金田, 2009)としている。川道ほか(2010)は、爪痕などの痕跡によってアライグマの木造建造物への訪問を察知できるとしている。

方 法

1. 痕跡調査

痕跡調査は、川道ほか(2010)を参考にし、次のように行った。

1) 期間

期間は2010年4月21日から11月23日までとした。

2) 対象

岡山県内の社寺およびその他の木造建造物(以下、社寺等と略)のうち58社寺等を対象とした。ただし社寺等ごとに敷地内にある複数の建造物もまとめて1ヵ所と数えた。一般民家は家屋周辺に

立ち入ることが難しいため、調査対象に含めなかった。

3) 対象の選定

岡山県内全27市町村のうち1市町村あたり、原則として1～3カ所の社寺等を選び調査対象とした。その際、社寺等の大部分が木造でない場合(モルタルやアルミサッシが大部分を占めるなど)には対象から除外した。

4) 調査項目

調査では、1) 調査日、2) 調査対象の建造物が存在する住所・地名、3) 社寺等の名称、4) 建造物周辺を歩いて目視し、爪痕や手足型などの痕跡の有無を記録、5) 爪痕が柱などの下から上までつけられているか、以上の5項目について記録した。また、可能な範囲で写真撮影による記録も行った。

なお、爪痕の識別に際しては、金田(2009)および川道(2009a; 2009b; 2009c)を参考にし、爪痕の深さ、幅、大きさ、登った痕跡がどこまで続いているかなどから総合的に判断した。特にネコとの識別に留意し、不明なものについては判断を避けた。

2. 聞き取り調査

2010年4月から11月まで、岡山県野生動植物調査検討会のメンバーを中心に、アライグマの目撃情報等について聞き取りを行った。伝聞情報については可能な範囲で情報の照会を行った。

結 果

1. 痕跡調査

岡山県内の58社寺等を対象に、建造物に残された爪痕や手足型などの痕跡を調査した結果、58カ所の社寺等のうち43カ所(74%)の社寺等で、アライグマによると思われる痕跡(主には爪痕)を確認した(表1, 写真1, 2)。痕跡は全27市町村で確認された(図1)。

2. 聞き取り調査

得られた情報は表2の通りであった。目撃もしくは捕獲情報が得られたのは、倉敷市、岡山市、浅口市、津山市、備前市、和気町、吉備中央町付近、井原市の8市町であった(図2)。

考 察

1. 痕跡が県内に広く見られたことについて

爪痕等の存在はあくまでも過去の訪問の証拠であり、現在の周辺の生息状況を示すものではないと考えられる。ただ、アライグマの行動圏面積は、北海道で0.26～6.5km²の範囲(倉島ほか, 1998)、ポーランド西部で1.5～60km²の範囲(Okarma, 2010)との報告があるのに対し、岡山県の面積は7113km²と十分に広い。それにもかかわらず、アライグマによると思われる痕跡は岡山県内に広く見られ、かつ目撃情報も県内各所から得られたことから、本調査で確認された痕跡は、ごくわずかな個体に起因しているとは考えにくい。岡山県においてもすでに相当数の個体が生息していることが推測される。

2. 痕跡確認率について

京都市の社寺等でアライグマの痕跡調査を行った川道ほか(2010)によれば、「2005年に筆者らが調査を開始した時点では、京都市にアライグマはわずかししか生息しないと考えられていた。しかしながら、2005年の京都市61カ所の調査でアライグマの痕跡は47カ所(61カ所の77%)で確認された」としている。岡山県においてもアライグマについては、2010年3月時点で「狩猟統計への掲載や目撃情報があるのみで、標本や写真等、確実な記録はまだない」(小林ほか, 2010)とされ、その後2010年11月に井原市(旧芳井町)で1個体の捕獲記録があったものの、依然として生息状況は不明であり、現在でも「岡山県ではアライグマは馴染みの薄い動物」として捉えられている。しかし、痕跡確認率でみると、「2005年における京都市での数値(77%)」と「2010年における岡山県での数値(74%)」は似通っている。

2005年以降の京都市の状況については、「2005年2月～2010年1月に、京都市内の106社寺等の痕跡調査を行った結果、90社寺等(106カ所の85%)でアライグマの痕跡を確認し、このうち少なくとも8社寺等で繁殖を確認した。2005年4月～2009年12月、アライグマが住み込んでいる可能性の高い45社寺等に捕獲罠を継続的に設置した結果、ほぼ5年間に20社寺等(45社寺等の44%)で

表1. 岡山県内の社寺等におけるアライグマの痕跡調査結果.

番号	確認年月日	確認場所*	新市町村名	確認情報	備考**
1	2010/4/21	岡山市日応寺	岡山市	痕跡あり(爪痕確認)	○
2	2010/4/21	佐伯町佐伯	和気町	痕跡あり(爪痕確認)	○
3	2010/4/21	佐伯町米沢	和気町	痕跡は見えなかった.	
4	2010/4/21	備前市坂根	備前市	痕跡あり(爪痕確認)	○
5	2010/4/21	邑久町尻海	瀬戸内市	痕跡は見えなかった.	
6	2010/5/1	倉敷市連島町連島	倉敷市	痕跡あり(爪痕確認)	○
7	2010/5/1	倉敷市連島町矢柄	倉敷市	痕跡は見えなかった.	
8	2010/5/1	倉敷市連島町矢柄	倉敷市	痕跡あり(爪痕確認)	○
9	2010/5/1	倉敷市連島町矢柄	倉敷市	痕跡は見えなかった.	
10	2010/5/1	倉敷市連島町矢柄	倉敷市	痕跡は見えなかった.	
11	2010/5/3	佐伯町田賀	和気町	痕跡あり(爪痕確認)	○
12	2010/6/25	新庄村田井	新庄村	痕跡あり(爪痕確認)	○
13	2010/6/25	新庄村滝の尻	新庄村	痕跡あり(爪痕確認)	○
14	2010/6/25	新庄村田浪	新庄村	痕跡あり(爪痕確認)	○
15	2010/7/14	矢掛町横谷	矢掛町	痕跡あり(爪痕確認)	○
16	2010/7/19	熊山町石蓮寺	赤磐市	痕跡あり(爪痕確認)	○
17	2010/7/19	吉井町周匝	赤磐市	痕跡あり(爪痕確認)	○
18	2010/7/19	吉井町周匝	赤磐市	痕跡は見えなかった.	
19	2010/7/19	柵原町吉ヶ原	美咲町	痕跡あり(爪痕・手足型確認)	○
20	2010/7/19	英田町真神	美作市	痕跡あり(爪痕確認)	○
21	2010/7/19	西粟倉村長尾	西粟倉村	痕跡あり(爪痕・手足型確認)	○
22	2010/7/19	奈義町西原	奈義町	痕跡あり(爪痕確認)	○
23	2010/7/19	勝央町勝間田	勝央町	痕跡あり(爪痕確認)	○
24	2010/7/20	富村富西谷	鏡野町	痕跡あり(爪痕確認)	○
25	2010/7/20	富村富西谷	鏡野町	痕跡あり(爪痕確認)	○
26	2010/7/20	富村富西谷	鏡野町	痕跡は見えなかった.	
27	2010/7/20	湯原町禾津	真庭市	痕跡あり(爪痕確認)	○
28	2010/7/20	湯原町久美	真庭市	痕跡は見えなかった.	
29	2010/7/20	新見市新見	新見市	痕跡あり(爪痕確認)	○
30	2010/7/20	高梁市寺町	高梁市	痕跡は見えなかった.	
31	2010/7/20	高梁市寺町	高梁市	痕跡は見えなかった.	
32	2010/7/20	高梁市頼久寺町	高梁市	痕跡あり(爪痕確認)	○
33	2010/7/20	美星町星田	井原市	痕跡あり(爪痕確認)	○
34	2010/7/20	井原市野上町	井原市	痕跡あり(爪痕確認)	○
35	2010/7/22	久米南町誕生寺	久米南町	痕跡は見えなかった.	
36	2010/7/22	久米南町南庄	久米南町	痕跡あり(爪痕確認)	○
37	2010/7/22	加茂川町円城	吉備中央町	痕跡あり(爪痕確認)	○
38	2010/7/26	長船町東須恵	瀬戸内市	痕跡は見えなかった.	
39	2010/7/26	長船町牛文	瀬戸内市	痕跡あり(爪痕確認)	○
40	2010/7/26	長船町土師	瀬戸内市	痕跡あり(爪痕確認)	○
41	2010/7/26	総社市総社	総社市	痕跡あり(爪痕確認)	○
42	2010/7/26	総社市井尻野	総社市	痕跡あり(爪痕確認)	○
43	2010/7/26	笠岡市吉田	笠岡市	痕跡あり(爪痕確認)	○
44	2010/7/26	早島町早島	早島町	痕跡あり(爪痕確認)	○
45	2010/7/26	早島町舟本	早島町	痕跡は見えなかった.	
46	2010/7/26	玉野市用吉	玉野市	痕跡は見えなかった.	
47	2010/8/7	玉野市胸上	玉野市	痕跡あり(爪痕確認)	○
48	2010/8/7	玉野市胸上	玉野市	痕跡あり(爪痕確認)	○
49	2010/8/7	里庄町里見	里庄町	痕跡あり(爪痕確認)	○
50	2010/8/7	里庄町里見	里庄町	痕跡あり(爪痕確認)	○
51	2010/8/16	賀陽町北	吉備中央町	痕跡あり(爪痕確認)	○
52	2010/8/16	賀陽町宮地	吉備中央町	痕跡あり(爪痕確認)	○
53	2010/8/21	中和村下和	真庭市	痕跡あり(爪痕確認)	○
54	2010/11/14	岡山市東平島	岡山市	痕跡あり(爪痕確認)	○
55	2010/11/23	津山市一宮	津山市	痕跡あり(爪痕確認)	○
56	2010/11/23	寄島町	浅口市	痕跡あり(爪痕確認)	○
57	2010/11/23	寄島町	浅口市	痕跡は見えなかった.	
58	2010/11/23	鴨方町六条院中	浅口市	痕跡あり(爪痕確認)	○

* : 旧市町村名を使用し, 社寺等の名称は省略した.

** : 「アライグマの痕跡」と筆者が判断したものに○印を付した.

表2. 聞き取り調査によって得られたアライグマの情報.

年	月日	目撃・捕獲情報	
1990	-	倉敷市連島町連島で目撃	佐藤, 私信
1999	3月6日	岡山市北区津高で捕獲	山陽新聞, 1999
2004	5月6日	岡山市北区菅野で目撃	高原, 私信
2008	12月1日	浅口市(旧寄島町)寄島干拓で目撃	佐藤, 私信
2009	11月11日	中国自動車道下り線(津山市)で交通事故死体目撃	金田, 私信
	-	備前市新庄で目撃	池本, 私信
	5月31日	和気町(旧佐伯町)小坂で目撃	難波, 私信
2010	9月3日	岡山自動車道上り線(賀陽ICよりやや北)で交通事故死体目撃	池本, 私信
	10月27日	岡山市北区津島新野で目撃	森による聞き込み
	11月2日	井原市(旧芳井町)川相(小田川)で捕獲	小林, 私信

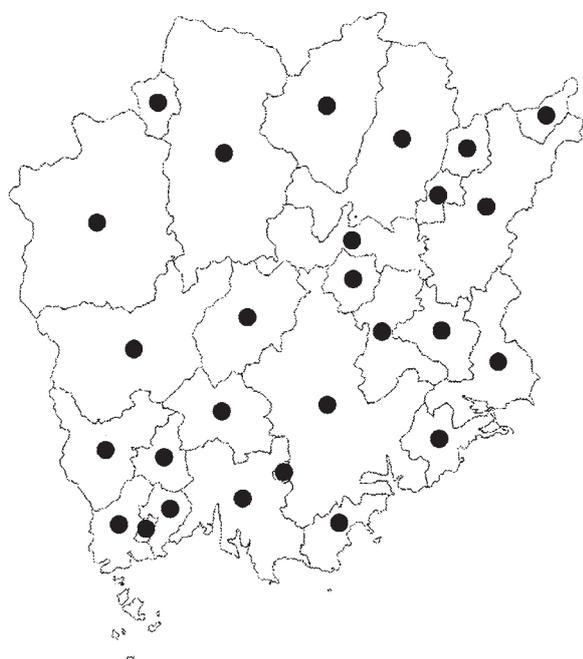


図1. アライグマによると思われる痕跡が確認された岡山県内の市町村. 痕跡は全27市町村で確認された.

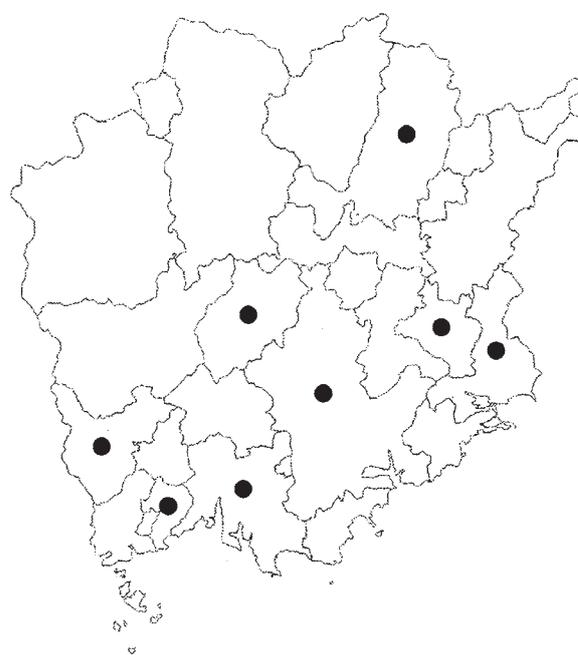


図2. 目撃もしくは捕獲情報が得られた市町村. 8市町から目撃もしくは捕獲情報が得られた.

捕獲があり, そのうちの1社寺等では5年間に44頭を捕獲した」(川道ほか, 2010)との報告がある.

本調査においても, 「比較的新しい爪痕が多数残されていた例」, 「爪痕が柱の上部にまで達し, さらに天井に侵入口と思われる穴が開いていた例」が, それぞれ複数の社寺等で見られた. このことから, 岡山県においても近い将来, 京都市と同様に社寺等での住み込みや繁殖が確認される可能性がある.

3. 文化財としての社寺等を守るために

川道ほか(2009a)は「北海道を除く日本各地には古くからの社寺が集落ごとに造られている. その多くは古い木造で, アライグマは簡単に軒の板を動かしたり, 壁を破り, 屋根に穴をあけて住処にする. そのためアライグマが入り込んだ社寺の天井裏は糞尿やアライグマが引きはがした板が散乱し不潔になるとともに, 次第に建物は壊されてゆく」としている.

今回調査した社寺等の中には、重要文化財の指定を受けた歴史的建造物も含まれていた。一方、荒神社のような小規模な建造物も含まれていた。いずれにしても、集落ごとに造られた社寺等は、地域の拠り所として、多くの人の目が向けられ、これまでも大切にされてきた。郷土の大切な財産を守るためにも、早急に詳細な実態調査が望まれる。

4. 水辺を高頻度に利用するアライグマ

本調査では、比較的新しい爪痕が多数残されていた社寺等があった一方で、爪痕がほとんど見あたらない社寺等もあった。比較的新しい爪痕が残されていれば、比較的最近アライグマが当地を訪れたことがわかる。ただし、Okarma (2010)によれば、ポーランド西部の湿地帯で調査された個体は、日中に地上の隠れ家を主に使っており、それは通常、水辺に近い（隠れ家からの最長距離が150mまでの）植物の茂みであったという。したがって、爪痕がほとんど確認されなかった社寺等についても、周辺での生息がないとは言えないと考えられる。アライグマが水辺を頻繁に利用することは様々な文献で示されている（倉島ほか, 1998; 池田, 2006; Okarma, 2010）。川道 (2009) は、「生息密度は生息地のタイプによって大きく変わり、湿地や潮間帯、遊水池などの湿った低地帯では、1 km²に平均50頭にもなる」と記している。

アライグマは雑食性で、ネズミ・ネコなどの哺乳類、鳥類およびその卵、魚介類、ザリガニ、カエル、ヘビ、昆虫類から果実、野菜・穀類など、あらゆるものを食べる（池田, 2000）。札幌市近郊の野幌森林公園では1997年にアライグマの侵入によってアオサギが営巣を放棄しており、以後営巣するアオサギは現れていない（池田, 2000）。神奈川県三浦半島の谷戸環境では、トウキョウサンショウウオやヤマアカガエルの産卵数が激減し、その原因としてアライグマによる捕食が考えられている（金田, 2006; 金田, 2010）。また、房総半島の河川を中心にした調査では、ニホンイシガメをはじめとする淡水性カメ類の個体数が激減しており、その原因としてアライグマによる捕食が疑われている（小賀野ほか, 2010）。

以上の例からすれば、岡山県内の水辺の生態系

を保護・保全していく上でも、今後アライグマの生息動向には格段の注意が払われるべきだと考えられる。

謝 辞

関西野生生物研究所の川道美枝子氏、金田正人氏、加藤卓也氏には、アライグマの生態や痕跡について多くのご教示をいただいた。元川崎医科大学の佐藤國康先生、岡山理科大学の小林秀司先生、財団法人岡山県環境保全事業団の難波靖司氏、池本茂豊氏、岡山県自然保護センターボランティアの高原芳明氏からは貴重な情報をご提供いただいた。記して感謝の意を表します。

引用文献

- 揚妻-柳原芳美, 2004. 愛知県におけるアライグマ野生化の過程と今後の対策のあり方について. 哺乳類科学, 44 (2): 147-160.
- 池田 透, 2000. 移入アライグマの管理に向けて. 保全生態学研究, 5 (2): 159-170.
- 池田 透, 2006. アライグマ対策の課題. 哺乳類科学, 46 (1): 95-97.
- 金田正人, 2006. 外来生物アライグマ (*Procyon lotor*) がトウキョウサンショウウオ (*Hynobius tokyoensis*) 等に与える影響. 三浦半島自然誌研究会. http://www.kndmst.net/topics/Hynob_procyon_rev4.pdf. 2010/11/25.
- 金田正人, 2009. アライグマの有効な発見方法・効果的な捕獲方法. 2009年アライグマ対策技術集 (暫定版). 7-16. 関西野生生物研究所. <http://www.h3.dion.ne.jp/~invasive/kansai/>. 2010/11/25.
- 金田正人, 2010. アライグマ対策の効果の評価について. アライグマ問題を考えるシンポジウム—ヨーロッパと亀岡市—資料集 (川道美枝子・金田正人・加藤卓也・川道武男編著), 関西野生生物研究所. 27-29.
- 川道美枝子, 2009a. アライグマを捕獲しやすい場所. 17-18. 2009年アライグマ対策技術集 (暫定版). 関西野生生物研究所.
- 川道美枝子, 2009b. アライグマ対策システム. 19-31. 2009年アライグマ対策技術集 (暫定版). 関西野生生物研究所.

- 川道美枝子, 2009c. アライグマの痕跡. 2009年アライグマ対策技術集 (暫定版). 32-40. 関西野生生物研究所.
- 川道美枝子・川道武男・金田正人・加藤卓也, 2010. 文化財等の木造建造物へのアライグマ侵入実態. 京都歴史災害研究, 11: 31-40.
- 川道武男, 2009. 原産地のアライグマの生態. 2-4. 2009年アライグマ対策技術集 (暫定版). 関西野生生物研究所.
- 小林秀司・川原啓路, 2010. 哺乳類. 岡山県版レッドデータブック2009 絶滅のおそれのある野生生物 (動物編) (岡山県野生動植物調査検討会編). 25-29.
- 倉島 治・庭瀬奈穂美, 1998. 北海道恵庭市に帰化したアライグマ (*Procyon lotor*) の行動圏とその空間配置. 哺乳類科学, 38 (1): 9-22.
- 小賀野大一・小林頼太・小菅康弘・篠原栄里子・長谷川雅美, 2010. 淡水性カメ類の被食被害: 房総半島における発生事例. 日本生態学会第57回全国大会講演要旨.
- Okarma, H., 2010. ポーランドのアライグマ概観. アライグマ問題を考えるシンポジウム—ヨーロッパと亀岡市—資料集 (川道美枝子・金田正人・加藤卓也・川道武男編著), 関西野生生物研究所. 2-12.
- 山陽新聞, 1999. 色鉛筆. 1999年3月7日付け記事.



写真1. アライグマによると思われる, 特徴的な5本の爪痕 (佐伯町田賀, 2010.5.3).



写真2. アライグマによると思われる多数の爪痕. (美星町星田, 2010.7.20).